9 de Janeiro de 1925 N.404

Nippak - Shimbun

Caixa 375 S.Paulo Brazil
Director Sack Miura

日伯新聞

伯國 聖市
エルナストガスト街十八番
電話 三七五
發行所 日伯新聞社
本紙定價
壹ケ年 貳拾五メル
半ケ年 拾四メル

視察者の色別

萬事に歐米かぶれした日本人が近頃はどういふ風の吹き廻しか歐米視察の序を以て、南米へ寄り廻つて來るものがボツ〳〵殖かせることは、寄時の忙しい世の中に於てそれもやれる筋のものではない、左樣なことは領事館か大使館あたりの閑人に一任して然るべしである。

只さへ殖民地と云へば母國の手合は始めから小馬鹿にして掛り、兎角如何はしき人物が渡來してベランを行はうとするのだ本來ならば從來引切りなしに來た日本の有象無象の素見客に對し、我國の實業界又は財界は一半の責任を感じ恥を知る所がなければならぬ勘定でのも、少くとも伯國への申譯の爲めにも、どうぞ何事かを具体化して居なければならぬ、然るに事實は全く之に反し、日本の實業界は此種素見者の横行に對し憤慨して恥づる所を知らず、在留同胞も亦愛想をつかし、玉石混淆的な待遇や便利をも與へぬ樣になつたこは寧ろ本幸な事ではあるが、他人の褌を締めて來る者はどうで何もせないに極つて居るから、帶巻腕アツサリ取扱つて落由である。

吾人は我大使館領事館などが動もすれば此等視察者の區別を過り、謁見蠅かチヨボ一みたいな奴と、折紙付で差廻して來る者には閉口の外はない、視察者の識別などは容易に疎い官吏に望むは無理かも知れぬが、それにしても餘りヒドイと云はねばならぬ。素見も客の内、素氣なく扱つては樓の人氣に差障すると充實を圖る案をたてつゝありと來れるのだが、他の旅費で來る者は始めから南米などにインテレストを持たず、只南米でも知つて居ねば諾が出來ないと云ふ種取りに過ぎない、從つて此等に向つて事實上の精細なる數字や過去の困難なりし經驗を聞かせることは、寄時の忙しい世の中に於てそれもやれる筋のものではない、左樣なことは領事館か大使館あたりの閑人に一任して然るべしである。

只さへ殖民地と云へば母國の手合は始めから小馬鹿にして掛り、兎角如何はしき人物が渡來してベランを行はうとするのだ本來ならば從來引切りなしに來た日本の有象無象の素見客に對し、我國の實業界又は財界は一半の責任を感じ恥を知る所がなければならぬ勘定でのも、少くとも伯國への申譯の爲めにも、どうぞ何事かを具体化して居なければならぬ、然るに事實は全く之に反し、日本の實業界は此種素見者の横行に對し憤慨して恥づる所を知らず、在留同胞も亦愛想をつかし、玉石混淆的な待遇や便利をも與へぬ樣になつたこは寧ろ本幸な事ではあるが、他人の褌を締めて來る者はどうで何もせないに極つて居るから、帶巻腕アツサリ取扱つて落由である。

吾人は我大使館領事館などが動もすれば此等視察者の區別を過り、謁見蠅かチヨボ一みたいな奴と、折紙付で差廻して來る者には閉口の外はない、視察者の識別などは容易に疎い官吏に望むは無理かも知れぬが、それにしても餘りヒドイと云はねばならぬ。素見も客の内、素氣なく扱つては樓の人氣に差障すると充實を圖る案をたてつゝありと

◉日本は氣長に待つ

日露交渉は目下休止されつゝあるも日本政府は氣長に時期の到來を期待しつゝあるが本春解決學生に至る迄ゝ豫期せらるゝある發明した

◉日本航空擴張に決す

既に航空三大隊を新設陸軍當局者は日本の航空力を歐洲諸國と均等ならしむる爲め擴張する計畫を實行するに決し、直に一中隊より成る航空三大隊を新設し且つ航空射擊タンク、輕機關銃毒瓦斯裝具及無電設備の充實を圖る案をたてつゝありと

◉外米輸入の防止に朝鮮米を增殖す

外米輸入防止の目的を以て政府は朝鮮米を從來より六百萬石增殖せしむる計畫を樹てたが其の費用は一億五千萬圓の多額を要し到底官業とする事不可能なる爲東洋拓殖會社をして引受しむる計畫であると

◉國庫負擔不可能

内閣書記官の結果義務教育費の國庫負擔は不可能と決定せり

◉皇后陛下御西下の際御召車爆壞を企

日本人青年及び過激なる鮮人より成るギロチン團の陰謀

ギロチン團の陰謀は各種の企るべき陰謀を凝らしつゝあり、がその最初の計畫として皇后陛下の聖上御病氣御回復祈願の爲めに京都御陵御參拜の際その御召車を爆壞せんとの發覺京都警察署の探知する處となりその本部を捜索し團員を檢擧せり

◉學生軍事教育反對に、文部當局が干渉

文部當局は究然熊本第五、岡山第六兩高等學校内所在の軍事研究會に解散を命令すると共に軍事當局に極つて居るから四五日露交渉は目下休止されつゝあるも日本政府は氣長に時期の到來を期待しつゝあるが本春解決學生に至る迄ゝ豫期せらるゝある發明した

◉横濱の人口三十四萬

九月行はれたその筋の調査に依ると横濱市の人口は約三十四万であるが、どう〳〵電柱と角力を取り一人は死ぬる、一人は左眼を潰す一人は人罪不省となることで結局大損をやりあつた。

▲バクチでは何と云つても沖縄縣の一人、シルビヤジヤポチスが本邦人間の神樣で、殆んど他にケーブル鐵道敷設許可申請者の追隨を許さない神技を持つてなしわたが政府に設申請許可に先だち國山の鑑査精量を命ぜりいもの下、俺も一人には一度會つたことがあるが、中々どうして奇妙なバクチ哲學を持てゐる一人の云ふ所に依ると子になるバクチは決して打ぬ、親元になるバクチなら何でも解せないと云ふのじや、それでバクチは必ずや親が儲つて、子が損するものと極つてゐる。

▲殊に子と子と喧嘩をさせて親は默つて、カスリを取る樣なバクチは始めから子が損に極つてゐる、例へば競馬やクロントンを見なさい、五千人の客が入つたとして一人當り平均の百ミルの金を持つて來たとして五百コントスだらう

▲それが一回勝負をすると此の十分の一か三分の一の二割といふものは、親のカスリで飛んで仕舞ふ、其次も二割、其次も二割で何度も繰返しておる内に場金は奇麗にカスリになつて消えて仕舞ふ仕組なのじや、

▲何でも二三年前リオの大使館員どもが闘鶏しにチヨボ一バクチを打つたものじや、俺はそんな面倒臭いことは嫌いじやケンかたらなんだが默つて見て居るの人馬鹿々々しいから、ラッを取つた。

▲高が官吏の串じや容赦情けもあらばこそビシ〳〵取り立てミやつた、タイ此間歸つた農商務省のベスカドールなど變な顔してたが滑々ラッを出しおつた。

▲そうすると最後になつて誰の勝前よりも俺のラッ錢の方が多かつたではないか、楽より四五ミルのことだから皆其家の女中に呉れてやつたが、バクチと云ふものは大方こんなものじや

▲それが親と子の直合戰になると歸ちそうは行かぬ、時とすれば親をヒドイ目に會はされることもあり、子も大儲することもあるがドッの詰りは、親が勝じやマア茶でも一杯呑みなさい、それからユル〳〵話すことにしやう。

◉政府作成の選擧案愈々閣議を通過

選擧に關する政府案は過日書の選擧に關する政府案は過日の閣議で審議を經て愈々完成を見た

◉東京市外債一億円

東京市が發行する外債募集總額は一億円、決しかがその内最初の五千万はコンドンで發行することゝなる目下財務官が英側と協商中だが發行の時期は今年四月になるであらうと

◉東京市に空屋殖ゆ

東京市内の現在家屋數數は四十萬戸で内イ影氣のため空屋二萬八千戸を算し日本橋に於いてさへ總戸數の一割は空屋であると

◉郵便貯金十一億圓餘

昨年十二月十五日現在の全國の郵便貯金總額は十一億七千萬圓に上り一昨年より二千四百萬圓の減少である

◉後藤子發狂か

前東京市長後藤新平子は精神錯亂し狂者となりたりとの說警察署より傳はれり

◉砲兵工廠移轉

東京砲兵工廠は廣島市仙波町に移轉し、其跡へ東京女子高等師範學校と附屬學校が引移ることゝなつた

須田町夜話

四凸生速記

（一）

ユヤアお出でなさい、暫くでこざいましたなあ、フン成程御家内も達者で、フン此頃はバクチもどショも止めて眞妙に働いておるテ、これは〳〵近頃結構なことじや、お神さんも嘸ぞ安心してごさらしやつろ。

▲どうもチエあのバクチといふ奴が中々儲りそうで居て儲からんものじや、ソレ去年何でもカンツーバに邦人が自働車を電信柱に打ち當てゝ、大怪我をしたらふ。

▲あれなどもバクチで五コントス某を儲けた爲めソレ自働車でバシヤをやれと鱈腹呑んだ上、威勢よく乘り出した迄はよかつたが、どう〳〵電柱と角力を取り一人は死ぬる、一人は左眼を潰す一人は人罪不省となることで結局大損をやりあつた。

▲バクチでは何と云つても沖縄縣の一人、シルビヤジヤポチスが本邦人間の神樣で、殆んど他

新珈琲 四年六年の二家族

本年 植付濟みの新コーヒ、二家族分の
ミリヨ、米等も既に開植濟み
場所 ソロカバナ線シャバンテス驛より十二マロメートル
耕地 コンセイソン耕地
耕主 グワタパラ耕地主ドト・ルリマ氏
高度 海拔七百メートルの高所に位し一九一八年の大霜に被害なく且つ稀有の健康地
耕地專用 目下開墾中來る三月 シャバンテス迄後成
自動車道 耕地の境を圍繞して流る
バラナパラマ河
日本人に對し好條件御相談いたしたし
右契約御希望者は至急御照會被下たし
ソロカバーナ線 コンセイソン耕地
シャバンテス驛
支配人 北村政吉
M. Kitamura, Chavantes L. Sorocabana
若くはシャバンテス町にて
國吉商店にて御問合せを乞ふ

小學校用日本教科書
藤崎商會
聖市 郵函 三四四
一年より六年生迄各種

Dr. Arthur Zapponi
Medico, Operador, Parteiro
醫師 アルツール ザッポーニ
診療所 聖市サンベント街四番二十二番 電話セントラル六三二一 (午後三時より五時迄)
自宅 聖市アベニーダランベルベスターナ街一五番 (午前八時至九時 午後一時至二時)

▲長近電報▼

◉伯國債務問題

獨逸賠償總額決定

獨逸賠償總額決定に際し、ドイツ側の代表者ルフレイレ氏は伯國の債務問題に就き、一昨日ロンドンに於て

◆讀者の聲◆

カンポグランデより

一　父兄

私はカンポグランデ日本人小學校父兄會員の一人であります。天惠の多いこのブラジルへ來た上は腰を据えて一生懸命に働いたら後には成功することも出來ると思つて安心して働いて居ますが子供の教育については誠に心配して居ます、然るに當地に於て今まで健全に發達して來た日本人小學校の增築問題について兒童父兄側と日本人會の幹部側とに意見の衝突が生じ兩方相容れず由々敷爭論となつて居たが之れも正義の指す所に從つて父兄側の意見が通つたが、幹部側痛く御立腹になつて總辭職騒ぎを提出して投出さうとしたが中裁の人が起つて漸く和議の妥になつたのであるが偖てその後の幹部方は此學校增築問題決定通りにやつて貰はねばならぬ筈だが一向何もせず徒らに改選期を延つて居るとは誠に驚いた話ではないか、然るに又近頃當校教員の安里德良氏に對して一二名の惡口屋が當地にては一言も發し得ずして貴重なる新聞紙上に己が憤懣を晴さんために無責任にも人の人格を卑下し人の名譽を毀損しその職に堪えざらしめんとする惡漢あるは誠に學校の爲め心痛の至りであります。

これで我學校では父兄會を開いて協議し日伯新聞紙上に安里氏の人物を明かにし若し又教育上御心痛の方あらば來りて私共に御相談ありたし憐れて居て當校教師を中傷するは道德的行爲にあらずと謹告せしに拘らず又々一少年と名づくる者の伯剌西爾時報紙上に投書して全氏を中傷せんとす誠に親校の一大害虫であります、成る程安里氏が急に商賣を止められたので世間では兎や角の評があつたことは事實であります、然し私は七八年以前より彼れと交はり彼れの性格をよく知つて居ましたので彼が決してそんな事をする人でないと此の世評を一々否定したのです、私は直接全氏に質して全氏の事情を詳し、知つたので彼の行爲が決して詐欺行爲でない却つて同情すべき點があるのを認めたのである、あらくだ〳〵しいけれども私は彼れが決して一二の惡口屋が云ふ通りの詐欺師でない事を證明しやうと思ふ

一、彼れが失敗に際し破產宣告（フワレンシヤ）の願を提出せざりし事若し彼れが詐欺師ならば財產を隱蔽して後破產宣告願を出して見えたる財產のみを以て彼れの負債の全部の支拂を終えたに違ひない、然るに彼れはこんな行爲なし

二、彼れは店を閉ぢて後十六コンドス余りの債務履行せること即ち左の如し

一、商業銀行へ二、〇〇〇
國武新七樣へ一、八〇〇島袋龜樣へ一、〇〇〇、新垣由樣へ一、〇〇〇大城ウシ樣へ一、〇〇〇島袋滿樣へ一、五〇〇
アブドリアッサンへ二、〇〇〇
〇ヵリザアダドへ一、一〇〇
〇タノモシへ三、二〇〇大城カマ樣へ三〇〇それぞれに對する利息其の他若干、もうこれで當地に於ける彼れの負債は大方濟んで居た、若し彼れが詐欺師ならば此の支拂ひ決してせなかつたでせう

三、彼れが他へ轉せざりしこと彼れが若し詐欺師ならば今迄で彼れが支拂ひし十六コントスの支拂をせずに他へ逃亡したであらう然るに彼れは店を止めて始めて一ケ年何處の地にも行かず一心に家政の整理をせられて居るではありませんか

四、何故に商品を他へ移したか問ふと彼れは左の如く答へた小資本の商賣に拘らず毎月利益を取つて居た、然るに同邦商人の失敗者が續出したので外人は勿論同邦に至るまで相疑ふ樣になり金の廻りが出來ないので店はどうしても立て行かぬ樣になりました、それで成る可く店を全部一度に賣る考へで買手を探したが當時非常な不景氣で一人の買手もなかつたので二人のトルコ商人に少し大株に品物を賣出したが何幾らかある、此殘品の爲に高い家賃を支拂つて居るのもつまらぬし、それに稅金と支拂期は既に經過するといふ時であつたので、どうしてもゆゝくと品物を賣り盡くす迄あの場所に居る事は出來ませんでした、それで市はづれの家賃の要らざる親類の宅へ引き越して掛賣金の取立や負債の辨償及び殘品の賣却等をしたのです實に之が私の世間から疑はれた行爲ですか何も惡い考へしたのではありません、しづれヴイヤジャンテへの辨償は出來ぬ、金は取られないが中には人の心を殺す惡人しい者があるを

社會主義の興るのも無理はない革命騒ぎも不止得ぬ、社會はあまりに不公平に出來てゐる、然しながら生物だ形に押しはめて出す譯にはいかぬ、叱言を言へば反目するでなければ恐がるだけだ、恐がれば公平な眞似をし謙遜な振りをするだけだ、それが何になる、腐敗の因だ、だが道理切れぬ、力のない我々には知りつゝも革命の火の手が擧がる、私は社會主義をはいさはもないが尤らしむべきものだ人を踏臺にして金儲けに人生を終る人がある他人を足場にして自分の地位をつくるのつゝがいて居る者があるも、甚だしいのは自分が日本人でありながら日本人に、それを出來ぬ人間より仕樣依つて今日あると現實でふ地盤に對する感謝を忘れ折角外人間に信用を得樣、そして將來を延ばす樣なぞと計画をしてゐる惡知恵者もあるけれ共自覺反省して忍なる程事に明かになる筈だ、七十のものは六十の時より進歩して居らねばならぬ、そうでなくてどうして世の中が發達し樣、

知慧のある人間はいやだ智慧だから老人は青年よりも進んで居り青年は又老人よりも進歩してゐる結局年齡は問題じやない

瞬間に自分はあるつて行く、昨日の自分は今日の自分ではない、惟へば瞬間に生死も朝夕も天地のあらゆるものが含まれて居る、常盆常正月とは事實である、だから瞬間が充實して居れば一生悔ゆる事はない、過去一年を顧みて悔ゆる事のない自分を何よりもうれしく思ふ

感想一束

茨木信太郎

旗幟は鮮明かなり、鮮明は時に憎まれ疎まれることはあるが他を過たせる事はない

八方美人はいやだ一寸見れば何人にもよい樣だがそのよつてれか何になる、腐敗の因だ、だが道理切れぬ、力のない我々には知りつゝも革命の火の手が擧がる、私は社會主義をはいさはもないが尤らしむべきものだ人を踏臺にして金儲けに人生を終る人がある他人を足場にして自分の地位をつくるのつゝがいて居る者があるも、甚だしいのは自分が日本人でありながら日本人に、それを出來ぬ人間より仕樣依つて今日あると現實でふ地盤に對する感謝を忘れ折角外人間に信用を得樣、そして將來を延ばす樣なぞと計画をしてゐる惡知恵者もあるけれ共自覺反省して忍なる程事に明かになる筈だ、七十のものは六十の時より進歩して居らねばならぬ、そうでなくてどうして世の中が發達し樣、

知慧のある人間はいやだ智慧だから老人は青年よりも進んで居り青年は又老人よりも進歩してゐる結局年齡は問題じやない

瞬間に自分はあるつて行く、昨日の自分は今日の自分ではない、惟へば瞬間に生死も朝夕も天地のあらゆるものが含まれて居る、常盆常正月とは事實である、だから瞬間が充實して居れば一生悔ゆる事はない、過去一年を顧みて悔ゆる事のない自分を何よりもうれしく思ふ

故村上虎次郎氏石碑建立寄附金芳名

（三回）

一金百錢　熊坂清四郎殿
一金五十錢　半澤虎尾殿
豐田小四郎殿
福川爲然殿
一金四十錢　矢崎節夫殿
一金參錢　馬場榴四郎殿
一金貳拾錢　伊藤順二郎殿
伊藤儀三郎殿
西廣源一郎殿
谷口幸一殿
渡邊謙一殿
一金拾五錢　上利山二郎殿
內田禾助殿
吉村春一殿
粕村靜雄殿
一金拾錢　村上眞一郎殿
加藤保松殿
森信敬次郎殿
沖口忠男殿
日置剛殿
河本文兵衛殿
肥田喜衛殿
中井淺吉殿
玉川吾吉殿
雜賀市太郎殿
一金五錢　少計五百參拾五錢
累計貳千參百拾錢也
大正十三年十二月三十日
會計　原口七郎

ガラージ
ミカド
電話シグーデ四〇
（壹時間十錢）

料理人
女中　入用
和洋料理人及女中各一名至急入用
在サンパウロ總領事館
（官舍勤務）
大正十三年十二月
春日廓明

日光館
榮門松
サントス市プラサ、デ、ジヨゼポニフアシオ五十一

食料品及雜貨販賣
歸國者御用達
土原商店
サントスに港ラルゴ、デ、セツナセツランプロ十六
電話　二〇〇八

測量、製圖、
土地調査、
道路工事請負並設計
其他土木一切の御求めに應じ申し候
土木技師　野村秀吉
ノロエステ線
リンス町郵函一七九

大阪商船會社
日本郵船會社　御用達
國際汽船會社
各艦船食糧並ニ船具賣込業
ヤマカ合資商會
小淵
前田　合同經營
サントス市
マルチンホアオンソ街四十一番
電話　セントラール一九七三番

パウリスタ線延長
チビリツサ山脈賣出し
▲實地踏査者は口を揃へて驚嘆す、パウリスタ延長線地帶は珈琲栽培に最適　肥沃にて霜害の恐なく、流水清澄にして健康地、將來大有望の區域なりと
▲地券の不安は土地購入の敵なるが今度小生弟代理として用達する土地は故上院議員トレドピーザ氏及男ドトールレリオピーザ氏所有の土地にして地券確實なり
は十數年來數万アルケールスを賣り出せし土地に一回の訴訟事件なき事は立派なる證據なり
▲パウリスタ延長線新市街を建設せんとするノーボクラーニヨスに位す　有名なるチビリツサ山脈（海拔百メートル）の地を賣り出します
▲始後二ケ月間に　耕主の競ふて購求し既に四千アルケールスに及ぶ
▲望者は至急實地　の申込まれたし
回自動車道はリンス驛より土地内を横斷す回
リンス驛より二六一番
パウリスタ線
尾崎孫三郎
（全線）レシデンシアベス驛
土屋留次
一切の照會及雜用は左記處
M.Ozaki
Caixa 232 Est, Lins L, Noroeste

血統

新宮新作

（一）

太一はひさし振りの晩酌にいい氣持ちでひと眠りしてからふと目を醒して、醉ざめの水をフラスコの口から飲んだ。

心地よい冷氣を含んだ月は彼等の寢室に流れて、その青白い反射は室いっぱいにはびこつてゐた。

そして彼の妻は、すこし口をゆるませ乍らかすかな寢息を立てゝ、死んだやうに深い眠りに落ちて居る……。

太一は月に掛る雲を窓越しに見乍ら此の月の下に行はれるもろ〳〵の事からをゆつたりした氣持で思つて居た。月に就いて思ひ出す彼の印象のうちで、いちばん深いものは何と云つても妻のお高を手に入れたその夜の事であつた。

△　▽　△　▽

學校を出たばかりのお高は若さをはち切らすばかりに櫻色の頬に浮べて祖母の對手によく千鳥を彈いた、太一の遠縁の娘で、彼はその頃色仕業ではかなりの自負をもつて居り、此と思つた女で彼の意がとほらないと云ふことがなかつたので、彼は彼の自信をいよ〳〵層重づけるためにいち度、かたい處女にぶつかり度いと思つてゐた。これな考から武家育ちのお高に特別の興味をもつて、むろん戀なしにひそかに機會を待つて居た。

それは月の明るい晩だつた。お高の寢室　襖　肘鐵　涙　勝利のよろこび　嫁怨　汗……

「弱きものよ！汝の名は女なり」

彼はこんなにしていつ層その自信に箔をつけた、そして彼は他の女たちと同樣お高との關係をそれ以來つづけてゐた。

お高との彼の情交に就いても全く彼の心のうちには戀だとか結婚だとか云つてしちめんたうな考はみぢんもなく、ただ單なる女から女への流轉に過ぎなかつたのである。

けれども彼等の關係は、二人の間に突發的な人間い出現に依つて、家がらや外聞を重んじるとしより達のために結び付けられる事になつて了つた。

二人の結婚は決して太一の漁色に取つて何等役豆たないで若い妻は不愉快な日を過し乍ら貝子供のみにひかれてその何年かを彼について來たのであつた。

十八年の星霜が過ぎて親子三人はブラジルの曠野に大地をうつてゐた。

△　▽　△　▽

月は雲を拂つては又抱く、次から次からわき起る雲のかたちを見乍ら彼は今まで關係した多くの女の事を夢を見る樣に彼は思ひつづけて居た。

食堂の時計は靜かそのもの中で二時を打つた。

彼はほつと溜息をついて思ひ直したやうに妻の方へ向きなほつた。彼女は無心に彼女の夢の世界を辿る。

……若かつたがなあ……と彼は漸く女の終末期の近付いた妻をしげ〳〵見入つた。

……俺が十八にもなりや俺も、うかうかしちや居られない……

だん〳〵。カフエーの相場を氣にしたり、友達のバクチの相手をしたりしてゐるうちに、白髮頭になつて、やがては來なで置かぬ墓穴に入るのかと思つて彼はギクリとしたがその考も月を殘して流れる雲の樣に心の隅へ消へて行つた。

お高は寢返りを打つて彼に脊を向けた。青い光は柔らい首の線を線どつて脊筋に消える。後れ毛が逆光に白くふるへるのが一つの微妙なリズムを與へてゐた。そして彼の動かぬ心は妻に新しく女を感じた。

「あの晩も丁度こんな風に脊を向けてくゝ俺が何と云つてもこちらを向かなかつたつけ。そしてほんとうに驚いてやがつたつけなあ」

目を閉ぢたとあの時の情景がさざ〳〵と浮んで來る。強い女特有のしほひ泣顏を刺戟してはないか。彼はどうすることも出來なくなつて。目は濕を求めて來た。

彼はこゝ幾度の思出から自分を現在に呼びもどすため相當の努力を持つて眼を開いた。

妻に靜かに動かない。月の光に浮いた室に道具はきちんともとのまゝである。たゞ彼の心臟だけが高鳴つてゐた。

太一は自身に笑ひ乍ら眼を追ふために眼を閉ぢた。群なる彼の今迄に係りあつた女子たちがめい〳〵の工風をこらして彼のおこなひを待つてゐた。彼は久目を開いた。と妻も室をすこしも變りはないのだ。やはり靜かに落ち付いてゐた。

……馬鹿らしい、一体どうしたと云ふんだ……彼は彼自身にいつぶやいた時妻は彼に面して寢返へりをうつた。

日伯詩壇

人生

泡影子

君の身躰は強くはない
たがそれが何だといふのだ
君は生きることを知つて居る
君の身躰は弱、けれども
君の前には死があるけれども
それか君に取つて何だと言ふのだ。

驚くな、
自然の前に屈服する瞬間が來る、
それは萬人が經驗する
時と言ふ空間の支配があるだけだ
大地は墓場だ

其後は君を永住地
其處　强かるべき君があつたら

君の身躰は弱くとも
君の前にはあつても
それが君にとつて何だと言ふのだ。
俺は君を知つてゐる
君の苦痛を乗り越した
意識の中にの二の君が
居きて居る

たか　何億の人の子よ
小さい心臟の鼓動がハタと
止まるを忘れる人迄よ
君等に樣い人間だ
鶴二の君を生かす事を知らぬ
愛嬢な人間だ。

洗練された痛みの前に
感謝の礫反なる祈を捧げ
自然の前に屈服する時を待つて
居る、それ君の肉の叫から
大きな叫びが叫はれんことを
望む。

その叫びは勝利の曲。
不死の曲だ。

君は弱く生きて來た。
然るそれが何だ
君の生活の四囲がそれ程に
豐富だつたら
君の生命が短かからうと
君は永遠に強かるべき人である
ことを想ふかよい。

それだけで滿足だ
人生の慾望には限りがない
それを追ふ事を中止した
君の大きな決斷力は
君の人格の偉大なる所以だ

「生きる」と言ふ自信の前に
「生きる」と言ふ信條の前に
奮闘して來た君の日から
大きな勝利の永遠のそして
歡喜の叫びが擧げられんことを
望む

君の「生」は小さな時計の
チクタクから永遠に離れてゐる
だがその空間を征服した君の
前に誰が再び君を征服し得よう
ぞ

死は勝利だ絶對の勝利だ
凱歌はあげらるべきだ歡喜を
以て迎ふべきものだ
驚いてはならぬ
人間よ

廣告

大正十三年七月二日二日法律第十四號及同年九月十二日勅令第二百十號に依り外國に居住するものが所有し又は專有して居る證券が震災に依り滅失又は紛失したるか爲め其査定を求むべき期間は同年九月十五日から始めて向ふ六ヶ月間であるから右の査定を求めんとする方は同期間内に左記事項を記載した査定請求書を司法省内の喪失國債審査會に提出すべきこと、あり

一、國債名稱及總金額
二、證券の號數、番號、並額面金額の種類及枚數　但し不明なるものに付ては其旨
三、請求人が證券に付其滅失又は紛失の際有したる權利
四、證券の滅失又は紛失に關する詳細の事情並査定請求書には證明の資料を揭載し證憑書類ある時は其原本又は謄本を添付すべき事

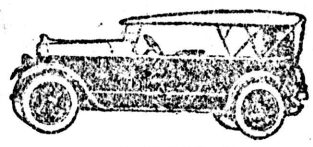
大正十三年十月二十七日
帝國總領事館

御旅館
北西線バウルー驛前
沖山心平
屋比久孟德
玉那覇重榮

ホテルすたんそ
麻州カンポグランデ驛
宮平市榮

Rua 15. de Carvalho No. 5
Telephone No. 156 BAURÚ
今度上記の場所に於て再び旅館開業仕り候間倍當の御盛負賜はり度奉懇願候
舊ホテルコングレソ
澤尾ホテル
バウル北西驛前
電話……一五六

自働車業
Garage Congresso
Praça João Mendes
Telephone Central 81



綿作地賣却
ソロもパナ線ボルトフエース驛から四キロ綿作其他雜穀栽培に適當なる土地をロツテて年賦拂ひに賣ります
地權は確實で價額も割安です御希望の方は左記へ問合せ下さい
聖市ルアサンペント四十番
二階二十番室
ラベーロ、シントラ
又はポルトフエリース市
フランシスコ、ノグイラ

農産物仲買商
噴霧器ベルデバリス
アルセリコ、サルバドル等の取次販賣も致します
岡島仁郎
セ、セーザル驛
郵函、十四番

日本雜貨　獨逸品各種　賣藥、罐詰類、色々玩具類、額面用ゼラチン、額緣
バウルー市バチスタ、ダ、カルバリオ一四番
柳木藥店

Y. KINJO
DENTISTA
齒科醫　金城山戸
聖市アップサンソ　ペンナ街　三七
電話　シダーデ　六二六七

東京館
電話ビラ一四七六
マウア街二九一
聖市ビラ驛側

廣島屋旅館
聖市、コンセレイロ、フータド街十六コンデ坂上電話セントラル四四七六
小川源右工門

旅館大和
聖市コンデ、デ、サルゼーダス街五三番
防迫健造
電話セント九八一九

成功館
聖市コンデ、デ、サルゼーダス街四拾壹番地（坂上）
古謝將義
電話二〇〇八番
サントス市ラルゴ　セッテ　デセツランプロ十五

御旅館
聖市コンデ、デ、サルゼーダス街四拾壹番地（坂上）
郵函　壹八五〇　電話　セントラル六一七三

御旅館
聖市、ルアーザニータ十一番
郵函
電話　一二二五
五七〇一

土地

◉喪中の樣な元旦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大正十四年一月九日　木曜日　第四百四號

Nippak-Shimbun

9 de Janeiro de 1925 N.404

斑鳩平次

浙波南愛蓮演

第二席

平次の幼時

忠「そこで子供でのるが、何分何所の者か相判らぬに依つて貴殿養ひ下さるか、また代官所にて引取り相當の手當をいたすであらう、何れと貴公の望の通りなさるが能い」平「幸ひ私も今一人子供をと思ふ折柄でござりまするは私の手許に引取り養育致すでござりませう」「そこで其子をもらひ受けることに相成りました、きて乳母を雇はねばならぬといふ一段にと相成ると下男の民藏が「民」「且那樣乳母と申す大變でございます、何も私は用事のある身体ではございません、粗が片栗粉など飲まして育てませう」平「さうか、ちやきうしてもらはふ」それから名前でございますが平兵衛思案の末平次と名附けました、兄が平造弟が平次兩の手に玉と寶子繼子の隔なく育てと居りました。子供は蟲も知らず日增にすん〳〵大く成つて行きます、所が世の諺にもある通り子權は鐵葉よりして香ばしく、蛇は寸にして人を呑み、日の本の子供は二ツにして米を呑み、伊太利人の子供は小にしてポレンタ、これは餘談でございますが、平次は普通の子供とは違ひまして四才の時には力が大層有りますると理屈の一つ二つこねると云ふ擂粉木、親の平兵衛は勿論他人も舌を巻いて驚いております。

茲元月日の關守なく九年の歳月廻り〳〵流れまして、はやくも平次が九才と相成りました、或日の軍下男の民藏平兵衛の許へ出て參り上「エ、且那樣一寸行つて參ります」平「アヽ歸つたら宜しく申して呉れよ」民「有難うございまする、どうも且那樣毎度御心配掛けて相濟みませぬ」平「イヤ定めて其方も心掛けであらう、實は俺も一度は訪ねたいが、何分役所が忙しい身の上で、民藏親のある内孝行するんだぞ必ず否な顔をするんぢやないぞ、孝行高度い時分には親はない」民「ヘイ、判つたか民藏、就いてはいつでも呉れたのはこの民藏でしやう、さうして見れば民藏の父さんの不快いのを私が見舞はね譯にはなりませぬ父樣なんどそんなものではありませんか」道理ある言葉にアット感心する兩人父「成程夫れもさうだ」民「ヘイ」父「何うも平次が彼の樣に申すのには困つた如何致したものであらう」民「且那樣私が坊樣をお連れ申して參りますサア坊樣參りませう」平「へ、どうも主持で一寸出て呉れ、ば宜いのに」民「イヤどうも主持にも都合があるからツい遲くなりました」婆「そもそもさうだらうが、先きから御苦勞さんがお前の見る樣も可出たり入つたり他の客樣も一寸馬鹿だ愛さうだよ、色男チヨツト、お前果報者ね」民「ヘイ」婆「して其子供は」民「御主人の前に」婆「さうかね……お坊つちやん！」婆「アレ民藏さんかへ」民「ヘイ」婆「お坊つちやん！」婆「變に笑ひなさんな……承知だから色々タマして見たが何分行くと言つて聞いて居ない樣子、取どめない國民の心始末で……」榜で聞いて居ない樣子、取どめない國民の心始末で……」榜で聞いて居ない樣子、取どめない國民の心始末で……」榜で